

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

# 京都観世会十二月例会

令和3年12月19日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



主催 公益社団法人 京都観世会

通盛

〈能〉

河村晴道

薩摩守

〈狂言〉

茂山逸平

蝉丸

〈能〉

替之型

杉浦豊彦

鉢木

〈能〉

片山九郎右衛門



## 会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

お問合せ・お申込み

☎ 075-771-6114

<http://www.kyoto-kanze.jp>

WEBサイトの公演情報からご予約が出来ます。



本公演は新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿った対策を講じる為、12月例会前売券は11月2日より事務所・電話・WEBにて限定数での発売と致します。なお年間普通会員・6回会員の方は、事前予約なしでご入場いただけます。会員券は前期券もご使用可能です。

前売券 (1階・2階自由席) 6,000円  
当日券 (1階・2階自由席) 6,500円  
学生券 (2階自由席) 3,000円

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金です。

### 京都観世会館案内図



- ◆京都観世会館へは
  - JR京都駅から
    - 市バス[5][100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 徒歩約3分 (乗車時間約30分)
    - 地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて東西線に乗り換え「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
  - 阪急京都河原町駅から
    - 市バス[31][46][201][203]で「東山仁王門」下車 徒歩約5分 (乗車時間約15分)
  - 京阪三条駅から
    - 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 徒歩約3分 (乗車時間約7分)
  - 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
  - JR二条駅から
    - 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
  - 山科・醍醐方面から
    - 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
    - 地下鉄東西線「東山駅」から
      - ①番出口から徒歩約5分
- ◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。



# 京都観世会十二月例会

小宰相局 河村浩太郎  
通盛 河村晴道

(能)  
僧福王知登 大鼓谷口正壽 太鼓前川光長  
從僧喜多雅人 小鼓吉阪一郎 笛杉 信太郎  
間 鳴門ノ浦人 鈴木 実

## 薩摩守

(狂言)  
出家 茂山逸平 茶屋 丸石やすし  
船頭 茂山あきら  
休憩二十分

(一時半頃)

蟬丸 味方 團  
杉浦豊彦 興昇 相元正樹  
替之型 清貴有松 遼一 充

(能)  
博雅三位 茂山 茂 大鼓石井保彦 笛森田保美  
間 興昇岡 充 小鼓曾和鼓堂

和布刈 (仕舞)  
柏崎 道行 松野浩行  
塚本和雄

(三時四十分頃)

常世ノ妻 橋本忠樹  
鉢木 片山九郎右衛門

(能)  
寶生欣哉 大鼓白坂信行 笛杉 市和  
二階堂何某 大日方寛 小鼓大倉源次郎  
早打ち 井口竜也 從者 茂山七五三

附祝言

(終了予定 五時二十分頃)

### 後見・地謡

(後見) 林宗一郎 谷弘之助 橋本光史  
片山伸吾 大江広祐 古橋正邦  
田茂井廣道 河村和貴 青木道喜  
吉浪壽晃

(後見) 井口竜也

(後見) 橋本光史 寺澤拓海 浦部幸裕  
井上裕久 大江泰正 浦田保親  
梅田嘉宏 浦田保浩  
吉田篤史 越賀隆之

(地謡) 河村紀仁 河村博重  
橋本擴三郎 樹下千慧

(後見) 大江信行 河村紀仁 分林道治  
味方玄 河村和晃 河村和重  
宮本茂樹 大江又三郎  
深野貴彦 河村晴久

### 【お知らせ】

当館ではアルコール消毒液の設置や、多くのお客様が手に触れる箇所には定期的に清掃・消毒を行っております。  
。「検温」「マスク着用」「咳エチケット」「手指消毒」のご協力をお願い申し上げます。  
。発熱・咳など風邪症状のある場合は、ご来館前に医療機関にご相談ください。  
。「字幕解説サービス」専用端末は千円(税込)にて貸出いたします。  
今後の状況の変化により、当日券販売の有無や催し物の内容変更または延期となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

### 解説

通盛 阿波国鳴門の磯辺にて、毎夜平家の跡を弔う僧の前に、御経を聴聞しようとする老人の乗った船が漕ぎ寄せてくる。暗闇の中、船の篝火の光で読経した僧に、二人は小宰相の局の物語を始める。一の谷の源平合戦で、夫通盛が果てたことを知った小宰相の局は絶望し、鳴門の海に入水したと物語るや、二人の姿は海中に消え失せる。(中人) 回向をつづける僧の前に二人が在りし日の姿で現れ、今度は一の谷の合戦の物語をする。戦いの前夜、通盛は忍んで陣を抜け出し、小宰相の局と名残を惜しみ、月の下、盃を交わした。項羽と虞美人の別れの悲しみもこれにはまさるうかと語り明かす中、弟の教経に出陣の遅れを責められ、後髪を引かれながら合戦に出、木村源五重章に討たれた経緯を再現する。しかし、読誦の声に成仏の機縁を得たことを喜んで消えてゆく。

### 蟬丸 替之型

延喜帝(醍醐天皇)の命により、清貴は盲目の皇子蟬丸を逢坂山に捨て置かれために供をする。帝の慈愛の無さを嘆く清貴に対し、蟬丸は、前世の罪業を今世で果たし、来世を助けるため父の慈悲であると言いつた。剃髪し、糞と笠と杖を与えられた蟬丸は、清貴が帰ると一人泣き伏す。やがて博雅三位が蟬丸を訪い、藁屋を設けて宮仕えを約して帰る。(中人) 続いて延喜帝の第三の皇女逆髪がやってくる。生まれながら髪が逆立つ彼女、狂乱して都を離れ、逢坂山で弟の宮蟬丸と再会する。二人は互いの悲運を嘆き、思い遣り、やがて涙と共に別れてゆく。貴種流離談の名曲。

### 鉢木

上野国佐野で大雪に遭った旅僧(実は最明寺入道時頼)は、夫婦の者に一夜の宿を借りる。宿の主は暖を取る為、秘蔵の鉢木を切り、火に焚いてもてなす。常人とは思えぬ風情に、僧が名を尋ねると、主は佐野源左衛門常世と名乗る。一族に横領されて零落してはいるが、いざ鎌倉に大事あらば一番に馳せ参ると、その志を述べる。僧は鎌倉への沙汰(訴訟)を促し、別れる。(中人) 鎌倉より使いが立ち、諸国より軍勢が集まる。執権最明寺入道時頼は、佐野での約束を違えず馳せ参じた常世を賞め、本領の安堵に加えて、鉢木のもてなしの報酬に、その木の名に因んで、梅田、桜井、松井田の三箇の庄を与えらる。常世はこれを賜り、歓喜して本領へ帰っていった。

### 次回予告

## 京都観世会一月例会

令和4年1月9日(日) 午前11時開演

(能) 翁 観世 清和  
(能) 難波 片山 伸吾  
(狂言) 三本柱 茂山七五三  
(能) 梅 彩色 大江又三郎  
(能) 野守 松野 浩行

### 【表紙写真】

《蟬丸》 杉浦豊彦 ウシマド写真工房 撮影